全大阪印刷工諸君は機勞働組合

諸君よ！

我々日本織物新聞社文選部職工一同が本日午後一時から同盟罷業を決行した事を告げる。

大阪印刷同業組合長たる村井基一を社長とする我が日本織物新聞社に於ける職工の賃銀低廉なるは世既に定評あり、不平怨嗟のつぶやき絶たずと雖も、或は常に社長の誇稱する恩情主義の甘言に惑はされ、或は當面の失業を恐れて彼村井基一が搾取に委するの已むを得ざる狀態を續け來つた。

一度個々の職工が賃銀値上げ要求の口吻にても洩さんか、我々の咽喉を托せる會社とその鞭を握る工場主任等は「氣に入らなければやめろ」の暴言を以てするのだ。

我々職工と雖も人間である。かゝる横暴なる資本家の苦に屈伏してゐられるものでない。遂に茲に結束して、本日午前九時左の四箇條の要求條項を提出し、午後一時迄にその確答を求めた。

一、賃金二割値上げする事

二、解雇手當制定する事

三、工場主任の更迭

四、正月三日間公休として給付する事

然るに恩情主義をモットーとせる社長村井基一は午後一時職工代表を引見して、我々の要求に一顧を與へず、斷乎として拒絶した。

我々無産勞働者が年末の難關に迫つて何事を爲し得やう！ぞこれが恩情主義者村井基一の腹である。資本家根性である。

我々はいつ迄彼の頤使に堪ね得るものぞ。

かうして決然として工場を去り大阪印刷勞働組合に爭議團本部を置き、益々團結を固うし死力を盡して要求の貫徹を期す可く陣容を整へた。

諸君よ！

必ずや諸君は何處迄も我々のこのに戰力を添へられる事を信ずる。即ち黄金の威力に屈して、織物新聞社にゲラ箱を握る勞働階級の裏切者なき事を信ずる村井基一は印刷同業組合長である。我々の勝敗は全大阪印刷工の勝敗である我々は勝利を期して起つ。

全大阪印刷工諸君よ！兄弟よ!!!

我々を援けられん事を。

大正年十二年十二月四日

日本織物新聞社爭議團